





インフォメーション・コーナー

会 告

農業農村工学会 42 回通常総会開催について	86
学会創立 80 周年記念式典・祝賀会について	86
研究部会長の交代について	87
サマーセミナー 2009 参加者募集！	87
土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 追補および参考資料発行のお知らせ	87
平成 21 年度「研究グループ」の助成金募集について（再）	88
平成 21 年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について（再）	88
学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!	89
「農業農村工学会学術基金」の募金について	89
農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのごお願い	90
身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!	
「水土の知（農業農村工学会誌）」平成 22 年春季の表紙写真の募集	90
「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	91
国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のごお願いと国際ジャーナル 「Paddy and Water Environment」について	92
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のごお願いと 2009 年 1 月から 2011 年 12 月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ	93
支部講演会の投稿票について	93
第 64 回中国四国支部講演会の開催について（第 1 報） 	94
第 66 回京都支部研究発表会の開催について（第 1 報） 	94
第 47 回畑地かんがい研究集会の開催について（第 2 報） 	95
農村計画研究部会第 31 回現地研修集会の開催について（第 1 報） 	96
第 58 回理論応用力学講演会開催について	96
第 9 回 PAWEES（国際水田・水環境学会）2009 国際研究集会の開催について	97
学会記事	98

第 77 巻第 6 号予定

展望：霞ヶ浦周辺と利根川下流域の国営土地改良事業と今後の展望：岩田勝男

小特集：霞ヶ浦周辺と利根川下流域の農業農村整備

霞ヶ浦水質の現状と流域対策：黒田久雄ほか

利根川下流域における水資源開発と水利用：井上恵博

国営霞ヶ浦用水事業：柴田知広

印旛沼土地改良区と創造運動：高橋 修

利根川下流下総地域における稲作と基盤の整備：池田寿夫ほか

技術リポート

北海道支部：雄武ダムにおける試験湛水結果報告：藤井幸基ほか

東北支部：希少水生植物「コウホネ」の保護と地域力の再生：田村 求

関東支部：神流川頭首工改修工事における生態系配慮とモニタリング調査について：田澤加奈子ほか

京都支部：吉野川分水馬見サイホン円筒分水工の設計について：愛宕徳行

中国四国支部：在来希少植物の保全に配慮したため池の改修事例：河野正弘ほか

九州支部：塩水侵入阻止型地下ダムの取水管理の検討：井手原克澄ほか

私のビジョン：教育と研究と実務にオープンソースソフトウェアの活用を：藤巻晴行

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちしております。

Ⓔのマークは、技術者継続教育認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成21年 8月3日	創立80周年記念 行事実行委員会	学会創立80周年記念式典・祝賀会		東京都	77巻5号
平成21年8月 4~6日	大会運営委員会	平成21年農業農村工学会大会講演会	Ⓔ	つくば市	76巻12号 77巻3号
平成21年9月 3,4日	畑地整備研究部会	第47回畑地かんがい研究集会	Ⓔ 地域の特徴を活かした畑地 農業の展開	岐阜県内	77巻3,5号
平成21年9月 10,11日	農村計画研究部会	第31回現地研修集会	Ⓔ	札幌市	77巻5号
平成21年 10月28,29日	中国四国支部	第64回講演会	Ⓔ	徳島市	77巻5号
平成21年 11月5,6日	京都支部	第66回研究発表会	Ⓔ	富山市	77巻5号

農業農村工学会第42回通常総会開催について

社団法人農業農村工学会定款第27条により、第42回通常総会を下記により開催いたしますので、代議員にはご出席くださるようご案内申し上げます。なお、定款第27条4項により、正会員は総会に出席して、議長の了解を得て意見を述べることができます。

議案の詳細につきましては、学会ホームページに掲載しています。

記

1. 日時 平成21年5月27日(水) 14:00~15:00
2. 場所 農業土木会館6階会議室
3. 議案
 1. 平成20年度事業報告
 2. 平成20年度収支決算
 3. 平成21年度事業計画
 4. 平成21年度収支予算
 5. 名誉会員の推挙
 6. 代議員の選任

学会創立80周年記念式典・祝賀会について

当学会は、創立以来会員のたゆまぬ努力により、農業農村分野における学術・技術の向上と社会の発展に大きく貢献してきました。

しかし、近年における農村の過疎化・混住化、農業従事者の高齢化の一層の進行に伴う諸問題への有効な対策のみならず、地球温暖化がもたらす農業への影響対策も大きな課題となっている中で、会員1万余名を擁する当学会が、会員の英知を結集して果たすべき役割は、益々増大しているといえます。

当学会が平成21年度に創立80周年を迎えるのを機に、これまで積み重ねてきた先人たちの努力に思いを致し、学術・技術の向上に更なる努力を傾け、社会の期待に応えて今後大きく発展するため、新たな出発点となるにふさわしい記念行事を行うことは、大きな意義があると思われまます。

この創立80周年記念事業を円滑に遂行するために、創立80周年記念行事実行委員会(委員長:石川県立大学 青山教授)を設置し、検討を行ってきました。

委員会において決定された記念式典の次第は下記とおりです。会員の多数の参加をお待ちしています。なお、参加申し込

みについては、学会ホームページ「新着情報:学会創立80周年記念式典・祝賀会について」をご参照願います。

記

1. 日時 平成21年8月3日(月) 14:00~18:40
2. 場所 東京都港区虎ノ門4-1-1
虎ノ門パストラル
3. プログラム

14:00~	開会挨拶 実行委員長 青山咸康
14:10~14:20	学会長挨拶(10年の歩み) 宮崎 毅
14:20~14:30	来賓ご挨拶 文部科学大臣(依頼中)
14:30~14:40	来賓ご挨拶 農林水産大臣(依頼中)
14:40~15:50	記念講演 JT生命誌研究館長 中村桂子
15:50~16:00	お祝いの言葉 韓国農業工学会長
16:00~16:10	お祝いの言葉 台湾農業工程学会長
16:10~16:20	お祝いの言葉 名誉会員代表 沢田敏男
16:20~17:00	感謝状授与 賛助会員より選考
17:00~17:05	閉会の挨拶
17:15~	記念祝賀パーティー

研究部会長の交代について

平成 21 年 4 月 10 日付で下記研究部会長が交代しました。

新部会長 登尾 浩助 (明治大学農学部)

記

前部会長 取出 伸夫

研究部会名 土壌物理研究部会

サマーセミナー 2009 参加者募集!

農業農村工学会サマーセミナー 2009 実行委員会

今年もサマーセミナーを開催いたします!

サマーセミナーとは農業農村工学を学ぶ学生が主体となつて行う企画で、本年度で 12 回目を迎えます。これまでに何名かの大学教員・研究者の方々にオブザーバーとして参加していただいております、今年も参加をお願いしています。

今回はテーマとして「未来の農業のために農業農村工学研究者が果たすべき役割とは?」を掲げる予定です。午前中はつくば市内の研究所の施設見学を行います。午後は農業や農業を取り巻く環境についての研究成果をもとに、農業農村工学は未来の農業に対してどのような貢献ができるのか、そして研究者・技術者が果たすべき役割とは何なのか、といったことを議論したいと考えています。また、この会が学生間の交流をよりいっそう深める機会となれば幸いです。一人でも多くの有志を募ります。ぜひご参加下さい!

1. 主催

農業農村工学会サマーセミナー実行委員会

・辻 英樹 (東京大学大学院農学生命科学研究科)

・加藤 千尋 (東京大学大学院農学生命科学研究科)

・下平 哲也 (筑波大学大学院生命環境科学研究科)

2. 日時

2009 年 8 月 6 日 (木)~8 日 (土)

3. 開催地 (予定)

つくば駅周辺 (研修地、宿泊地等は現在検討中)

4. 参加費用 (宿泊費等) 10,000 円前後

5. 詳細・参加申込み

申込みは以下のホームページからお願いします。詳細を随時公開する予定です。

URL : <http://www.jsidre.or.jp/newinfo/summer-seminar2009.htm>

6. 問合せ

E-mail : summer_seminar2009@yahoo.co.jp

土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 追補および参考資料発行のお知らせ

この度、以下の書籍が発行されましたので、お知らせいたします。購入を希望される方は、下記の要領でお申し込み下さい。

1. 書籍名・規格・価格

土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農業用水 (畑)」(追補)

体裁...A4判 44 ページ

価格...800 円 (消費税込, 送料学会負担)

土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「ほ場整備 (水田)」(追補 2)

体裁...A4判 18 ページ

価格...650 円 (消費税込, 送料学会負担)

土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「排水」(追補)

体裁...A4判 58 ページ

価格...900 円 (消費税込, 送料学会負担)

土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農業用水 (水田)」(参考資料)

体裁...A4判 38 ページ

価格...760 円 (消費税込, 送料学会負担)

2. 申込方法

・役所等で、公用として購入される場合 (代金後払)

FAX かメールでお申し込み下さい。様式は問いません。

ご希望冊数 送付先住所 請求書の宛名をご記入下さい。

・個人、会社で購入される場合 (代金前払)

現金書留: 書籍代金と、書籍名、冊数を書いた文書をご同封下さい。

郵便振替 (00160 - 8 - 47993): 振替用紙の通信欄に書籍名、冊数をご記入下さい。

3. 申込先

〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4

(社) 農業農村工学会事務局 図書係

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

E-mail : maki@jsidre.or.jp

平成 21 年度「研究グループ」の助成金募集について（再）

研究委員会

「研究グループ」の育成を目的とし、下記取扱い内規によって研究助成を行います。

助成金額は原則 1 件 20 万円程度、3 件以内です。

本年度の申請締切は、平成 21 年 6 月 30 日（火）ですので、助成金を希望される方は期限までに、所定の様式（学会 HP 参照）で研究委員会委員長宛にお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「研究グループ」への助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究グループ」への助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4 助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会は助成金申請のあった「研究グループ」につき、その可否を認定し、学会長に報告する。
3. 配布：研究委員会は認定した「研究グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として 1 年とする。
4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち、しかもその研究分野が現在立ち遅れており、それを研究することが学会の研究活動の発展に対して新しい芽になりうること。

(ロ) 「研究グループ」の構成は本学会員を主とし、構成員は自らその研究に携わる分担者であること。

(ハ) 「研究グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員は原則として 3 名以上、それらの所属する機関が二つ以上あること。

(ニ) 「研究グループ」のすべての構成員の年齢は、助成金申請締め切り日に 40 歳未満であること。

5. 活動報告：助成金を配布された「研究グループ」は助成金配布後 1 年以内に活動報告を下記注意書き事項に留意し作成し、研究委員会に提出すること。

注 1 研究経過報告書の執筆に当たり、農業農村工学会誌原稿執筆の手引きを参考とし、学会誌刷上がり 1~2 ページに収まるようにまとめること。

注 2 「研究グループ」からの研究経過報告は研究委員会で承認の上、学会誌に掲載する。

平成 21 年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について（再）

研究委員会戦略的研究推進小委員会

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は 60 万円程度（平成 20 年度、原則 1 件 20 万円以内）です。

本年度の申請締切は平成 21 年 9 月 18 日（金）です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式（末尾参照）で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長宛にお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4 助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容（申請の意義、準備の状況、将来の展望など）を検討して、助成金の配布グ

ループと金額を決定します。なお、この決定内容は学会長に報告します。

3. 配布：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として 1 年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先します。

4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。

(ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員（本学会員以外も可）は原則として 3 名以上、それらの所属する機関が二つ以上あること。

5. 活動報告：助成金を配布された「研究申請書作成グループ」

は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切：平成21年9月18日

申込先：戦略的研究推進小委員会委員長宛

E-mail：tkiku@jsidre.or.jp

必要記載事項：

- (1) WG名(または部会名) (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属 (4) 研究テーマ名(仮)
- (5) 研究の目的と内容(500字程度)
- (6) 研究資金申請応募先(予定)

学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!

行事企画委員会

技術者継続教育機構通信教育部会

通信教育を平成18年11月より本格実施しております。学会誌購読による自己学習で最大年間10CPDポイント、また、通信教育で最大年間18CPDポイント取得できますので、是非、通信教育にご参加下さい。

1. 参加会員の募集

参加をご希望の学会会員で、かつCPD機構会員の方は、農業農村工学会のホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)にある参加申込書に必要事項を記載してメール(E-mail: cpd@cpd.jsidre.or.jp)あるいはFAX(03 5777 2099)でお送り下さい。

なお、この機会に農業農村工学会、継続教育機構への入会を希望される方は、同様にホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>)に申込様式がありますので、ご記入の上お申し込み下さい。

2. 申込期限

参加は、いつからでも可能です。

3. 事務局

機構の運営委員会内部に設置する部会および継続教育部が担当します。(☎03 5777 2098)

4. 内容

問題は3カ月前の学会誌の報文等から、機構通信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で、毎回10問出題します。報文の事実的内容から作成し、回答はメールで機構に送信していただきます。

採点の結果、7割以上正解で1CPDポイント、満点で1.5CPDポイントが取得でき、機構会員の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

5. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

「農業農村工学会学術基金」の募金について

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成20年度までに49件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名(社) 農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140 2 54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」、「学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーを希望される方は事前に登録の申請をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿(2年毎更新)に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以

下のとおりです。

調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。

派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。

調査団の派遣期間は、原則2~3日とする。

調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する(年度予算限度額300万円)。

調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。

調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局 FAX 03 3435 8494, E-mail saigai@jsidre.or.jp までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) よりダウンロードして下さい。多数の応募をお待ちしております。

なお、登録頂いた個人情報、災害対応調査にのみ活用し、適切に取り扱います。

身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!

「水土の知(農業農村工学会誌)」平成22年春季の表紙写真の募集

学会誌編集委員会では、平成22年も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。

趣 旨

わが国は急峻な地形であることや水田稲作が発達したことに起因して、水を制する、水を利用するための土木的施設が数多く造られてきました。それら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、今も過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えています。また、それぞれの機能を発揮するとともに、年月を重ねることでその地域の自然や文化にけいこみ、その景観を構成する要素として不可欠なものもあります。それが大規模プロジェクトで建設されたものでなくとも、私たちが調査・研究・事業の対象としている農村地域には、規模に違いこそあれ立派に機能美と景観美を放つものが存在します。

農業・農村の現場で活躍される皆さま、日頃何気なく見過ごしているかもしれない水利遺構とそれを含む景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録いただき、広く学会員にご紹介下さい。特に今回は、「春」が感じられる「水利遺構」の写真を募集いたします。

記

1. テーマ

「水利遺構：先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美」

(昨年と同様)

2. 対象巻号

学会誌第78巻4~6号(平成22年4~6月号)

3. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで(デジタルカメラの場合はJPEG ファインモードまたはTIFFモードに設定)撮影して下さい(サイズは六ツ切)。組写真の場合は、その旨明記して下さい。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 平成21年6月30日(春季の写真)

6. 審査

審査委員会(編集委員と写真家)で選考します。

7. 結果発表

学会誌第78巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成22年度大会会場でパネル展示します。

8. 謝礼

採用作品には規定の賞金(1点につき3万円)をお支払いいたします。また、応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History(表紙写真由来)」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History(表紙写真由来)」をご執筆頂きます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお

支払いします。

10. 使用権

採用作品の使用権は(社)農業農村工学会に属します。

11. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。ご注意ください。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること(花などの情緒物に埋没しないこと)、また、デジタル画像の場合は表紙に拡大したときにドット崩れしない十分な解像度があること、が採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、撮影データ(フィルム、使用カメラ等)、対象物の固有名称(固有名称)、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却しません。

〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4

(社)農業農村工学会

農業農村工学会誌編集委員会「表紙写真公募」係

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

E-mail : suido@jsidre.or.jp

「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!

学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」、「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 77, 78 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)	原 稿 締 切 (刷上り 4ページ厳守)
77 巻 6 号 霞ヶ浦周辺と利根川下流域の農業農村整備	公募せず	
7 号 平成 20(2008)年岩手・宮城内陸地震による農地・農業用施設の被害報告	公募せず	
8 号 地域バイオマスの利活用	公募終了	
9 号 食料自給率向上に向けた農業農村工学技術(仮)	公募終了	平成 21 年 5 月 29 日
10 号 学会創立 80 周年記念企画(仮)	公募せず	平成 21 年 6 月 30 日
11 号 農村地域における被災時の支援(仮)	平成 21 年 6 月 15 日	平成 21 年 7 月 31 日
12 号 小規模灌漑施設のマネジメント(仮)	平成 21 年 7 月 15 日	平成 21 年 8 月 31 日
78 巻 1 号 鳥獣害の状況と対応策(仮)	平成 21 年 8 月 14 日	平成 21 年 9 月 30 日
2 号 農業水利施設におけるリスクマネジメントの取組み(仮)	平成 21 年 9 月 15 日	平成 21 年 10 月 30 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4
(社)農業農村工学会 学会誌編集委員会あて
☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494
E mail : henshu@jsidre.or.jp

77 巻 11 号テーマ「農村地域における被災時の支援」(仮)

近年、平成 19 年の能登半島地震、新潟県中越沖地震、平成 20 年の岩手・宮城内陸地震などの大規模地震が発生しているほか、梅雨前線および台風による集中豪雨が発生するなど、甚大な自然災害が多発化しており、気候変動による被災リスクも高まっています。

また、東海、東南海・南海、首都直下、中部圏・近畿圏内陸等においては、大規模地震発生の切迫性が特に高いとされています。

このような中、「経済と財政改革の基本方針 2008」(平成 20

年 6 月 27 日閣議決定)によれば、「地球温暖化により懸念される集中豪雨の増加等の自然環境の変化も考慮しつつ、「犠牲者ゼロ」を目指し、防災・減災対策を着実に実施する」とされ、「ハード・ソフトの連携を図る」とされるなど、地域全体でのハード・ソフトの一体的な防災・減災対策が求められているところ。

農村地域において、大規模地震や集中豪雨などにより被災した場合、広範囲の農地への影響、長期の断水等から農業生産に悪影響を与えるだけでなく、地域の基幹道路や軌道等の重要公

共施設および災害時の避難路や避難施設等の重要な施設ならびに家屋等への二次的な災害も懸念されます。

本小特集では、ハード・ソフトの一体的な対策を進める中で

も、特にソフト面に着目し、専門家による技術支援やボランティアによる支援の取組み事例や新たな取組み方の提案等に関する報文を広く募集します。

77巻12号テーマ「小規模灌漑施設のマネジメント」

中小河川や圃場近傍に整備される小規模灌漑施設は、地域住民の生活や文化と密接に関係しており、農家、地域住民の創意工夫や個性が入ったものが見られます。この小規模灌漑施設の利点として、農家自らが施設を維持管理できるため水利用への認識が高まること、末端の水需要の変化に補助水源、自己水源等で柔軟に対応し水資源を有効に利用できること、地域の特色を生かしたブランド農産物生産や畑作転換などへ適用できること、等が挙げられます。

このように多くの機能を有し、農業農村工学技術の工夫が

入った小規模灌漑施設を、貴重な地域の資産として農家や地域住民が協働で維持管理してゆくことは、今後の農業農村整備に重要と認識されます。

そこで、石積み堰、溪流取水工、地下水路、井戸水灌漑、簡易水路、揚水水車灌漑など地域住民の生活、歴史、文化に密接に関係し、農業農村工学のオリジナリティをもった小規模灌漑施設の、整備、維持管理における管理労力、コスト、生産性等の問題に対する取組みについて論じるべく本小特集を企画しました。会員の皆様からの多数の投稿をお待ちしております。

「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の薦める本」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」、また、会員が薦める書籍などを紹介するコーナーとして、「私の薦める本」を設け、随時募集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするともに、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと考えております。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

オフィス便りは、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、「技術者継続教育」・

「技術力の向上」・「技術者倫理」など。

キャンパス便りは、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるもの。

原稿の長さは、**刷上り2ページ**(4,000字程度)で、写真を1~2枚程度入れて下さい。

私の薦める本は、「書籍」・「その他の著作物」など。原稿の長さは写真等を含め**刷上り1ページ以内**(1,200字)で、原稿には表紙の写真を含めて下さい。

奮ってご投稿下さい。

国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお祝いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊し、2009年6月末にVol.7, No.2が発刊されます。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々が国際学会へ入会されることを希望します。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水(排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生, 陸生動植物の生態系)

⑦ 地域計画(農村計画, 土地利用計画など)

⑧ バイオ環境システム(水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)

⑨ 水田の多目的利用(田畑転換, 施設園芸)

⑩ 農業政策(農村振興, 条件不利地の支援策など)

水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として、皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと、会員には国際ジャーナルが、年4回無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag社(ドイツ)

発刊スケジュール: 2003年3月創刊, 以後3カ月ごと

国際学会会費: 正会員 12,000円/年/4冊(送料等学会負担)

学生会員(院生含む) 8,500円/年/4冊(送料等学会負担)

申込先: 農業農村工学会編集出版部 馬目あて

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

入会のお申込は、学会ホームページ <http://www.jsidre.or.jp>

/publ/ij/scope htm) の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ、メールまた

は FAX でお申し込みいただけます。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2009年1月から2011年12月までの編集事務局(投稿先)のお知らせ

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering)は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2009年6月末にVol.7, No.2が発刊されます。

わが国においても学術誌の評価に、SCI(Science Citation Index)のIF(Impact Factor)が利用されており、本国際ジャーナルでもIFの取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界13カ国からEditor(14名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer Verlag社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI獲得のために年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

2009年1月から2011年12月までの編集事務局(投稿先)は、台湾になります。

投稿先: Yu-Pin Lin, Ph.D., Professor

Department of Bioenvironmental Systems Engineering National Taiwan University

No.1 Sec 4 Roosevelt Road, Taipei, 10617 Taiwan (R.O.C.)

E-mail: yplin@ntu.edu.tw

TEL: +8862 2 3366 3467

FAX: +8862 2 2363 5854

(During Jan. 2009 to Dec. 2011)

編集方針: 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

編集体制

• Editor in Chief: Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)

Professor Emeritus, Kyushu University, Japan

• Editors 13カ国から14名

• Editing Board 32名

• Managing Editors

Chief Managing Editor: Dr. Soon-Jin HWANG

Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea

Dr. Yutaka MATSUNO

Faculty of Agriculture, Kinki University, Nara, Japan

Prof. Dr. Masaru MIZOGUCHI

Department of Global Agricultural Science, University of Tokyo, Tokyo, Japan

Prof. Dr. Tsugihiko WATANABE

Research Institute for Humanity and Nature (RIHN) Kyoto, Japan

Prof. Dr. Ke-Sheng CHENG

Department of Bioenvironmental System Engineering, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

出版社: Springer Verlag社(ドイツ)

投稿資格: 筆者全員が国際学会員であること。

投稿要領等: <http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載していません。

支部講演会の投稿票について

支部講演会への投稿要領のうち、原稿や投稿票の作り方の統一された部分を一括して学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)に掲載しますので、支部講演発表希望者各位は、投稿票と同じ項目のファイルの入ったフロッピーディスクを各

支部講演会担当者宛ご提出下さい。

ただし、各支部の投稿規定等別途指示がある場合は、各支部の投稿規定に従って下さい。

第64回中国四国支部講演会の開催について(第1報)

技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 講演会

日時：平成21年10月28日(水)
 会場：徳島県郷土文化会館
 〒770 0835 徳島市藍場町2-14
 ☎088 622 8121

2. 情報交換会

日時：平成21年10月28日(水)
 会場：ホテルグランドパレス徳島
 〒770 0831 徳島市寺島本町西1-60-1
 ☎088 626 1111

3. 現地研修会

日時：平成21年10月29日(木)
 コース：未定

4. 問合せ先(講演会参加窓口と原稿提出窓口を別にしていきますので、ご注意下さい)

(1) 講演発表原稿提出窓口および問合せ先
 農業農村工学会中国四国支部事務局 石井将幸
 〒690 8504 島根県松江市西川津町1060

島根大学生物資源科学部
 TEL&FAX 0852 32 6556

E-mail: shibukouenkai@zoukou.life.shimane-u.ac.jp

(2) 講演会参加申込窓口および問合せ先
 徳島県農林水産部農山村政策局農山村整備課
 一村, 安丸, 板東

〒770 8570 徳島市万代町1-1

☎088 621 2452 FAX 088 621 2859

E-mail: nousansonseibika@pref.tokushima.lg.jp

5. 詳細

本誌7月号に掲載の予定です。

第66回京都支部研究発表会の開催について(第1報)

技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 研究発表会

日時：平成21年11月5日(木)10:00~17:00
 場所：富山県民会館(予定)
 〒930 0006 富山市新総曲輪4-8
 ☎076 432 3111(代)

2. 情報交換会

日時：平成21年11月5日(木)18:00~20:00

3. 現地研修会

日時：平成21年11月6日(金)9:00~16:00

4. 研究発表申込み

研究発表者は、投稿原稿に先立ち7月末日までに、表題(仮題でも可)、発表者名、所属、年齢(研究奨励賞対象者のみ)、連名者名、所属、年齢(研究奨励賞対象者のみ)、希望発表部門(水理、水文・気象、土壌物理、土質力学、応用力学、材料・施工、灌漑排水、農地造成・整備・保全、農村計画、環境保全、生態環境、地震・その他)、発表者の連絡先電話番号、発表者のEメールアドレス(利用可能な場合)を記入した申込書(様式任意)を、下記の発表申込先・新潟大学吉川あてにEメール(件名を「発表申込み」として下さい)あるいはCD(txtファイル)で郵送下さい。ただし、発表者は学会員に限らせていただきます。

なお、京都支部では、大学、短期大学、研究期間に所属する

発表時35歳以下の会員(学生会員も含む)によって口頭発表された優秀な研究に対し、研究奨励賞を授与しています。同賞の受賞基準に該当する方(35歳の連名者を含む)は、必ず申込書に年齢を記入して下さい。

投稿原稿に関する詳細な要領は6月号を参照して下さい。

5. 発表申込先

〒950 2181 新潟市西区五十嵐2の町8050

新潟大学農学部 吉川夏樹

TEL&FAX 025 262 6653

E-mail: natsuky@agr.niigata-u.ac.jp

6. 申込期限

(1) 発表申込 平成21年7月末日

(2) 原稿締切 平成21年7月末日

(3) 参加申込 平成21年8月末日

7. 問合せ先

富山県農林水産部耕地課内

第66回農業農村工学会京都支部研究発表会

運営委員会事務局 担当 橋本正義、宮田義人

☎076 444 9640(直通) FAX 076 444 3437

E-mail: masayoshi.hashimoto@pref.toyama.lg.jp

yoshihito.miyata@pref.toyama.lg.jp

第 47 回畑地かんがい研究集会の開催について (第 2 報)

テーマ「地域の特徴を活かした畑地農業の展開」

技術者継続教育プログラム申請中



1. 開催日

- (1) 研究集会 平成 21 年 9 月 3 日 (木)
- (2) 現地研修会 平成 21 年 9 月 4 日 (金)

2. 場 所

- (1) 研究集会
岐阜大学講堂 (図書館に隣接)
〒501 1193 岐阜市柳戸 1 1 岐阜大学
講堂の位置図は岐阜大学のホームページ
(<http://www.gifu-u.ac.jp/list.rbz?nd=133&ik=1>) をご覧下
さい。
- (2) 現地研修会
郡上市, 白川村の農村整備事業地区の現地視察
- (3) 岐阜大学までの交通手段
「JR 岐阜駅北口バスターミナル」が「名鉄岐阜」のバ
スのりばから, 岐阜大学・病院線 (N 45 C 60 C 70 C
71 C 75 C 76 系統) の岐阜バスに乗車して約 30 分 (310
円) です。
詳細は岐阜大学のホームページ
(<http://www.gifu-u.ac.jp/view.rbz?cd=393>) を ご 覧 下 さ
い。

3. プログラム

- (1) 研究集会 平成 21 年 9 月 3 日 (木) 9:30~17:10
9:00~9:30 受付
9:30~9:40 開会
9:45~10:20 「東海地域における特徴的な畑地農業」
東海農政局農村計画部資源課 田中一彦
10:25~11:00 「岐阜県の農業農村整備事業について」
岐阜県農政部農地計画課 渡辺吉康
11:10~12:00 「最近の畑地かんがい資機材」
機材展示会社計 5 社
12:00~13:00 昼食
(昼食はご用意致しませんので, 大学構内
の学生食堂か大学周辺の食堂をご利用下さ
い。)
- 13:00~13:45 「畑地整備を巡る最近の動向」
農林水産省農村振興局水資源課 石田 勲
- 13:50~14:35 「中山間地における鳥獣害の実態と対策」
岐阜大学応用生物科学部 安藤正規
- 14:45~15:30 「用水を利用した葉菜類の周年栽培による
雨よけハウスの高度利用」
西濃地域農業改良普及センター地域指導課 林 利成
- 15:35~16:20 「雨よけ栽培の水管理と用水計画」
岐阜大学応用生物科学部 伊藤健吾

- 16:30~17:00 総合討論
- 17:00~17:10 閉会
- 17:30~19:00 情報交換会 (岐阜大学内: 応用生物科学部
A 棟 210)
- (2) 現地研修会 平成 21 年 9 月 4 日 (金) 8:30~16:00
8:00~8:30 集合・受付
集合場所は JR 岐阜駅前, 詳細はホームペー
ジ等にてお知らせします。
- 10:15~10:45 畑地帯総合整備事業「上野地区」
- 11:45~13:30 中山間地域総合整備事業「白川郷地区」・
「白川地区」
(白川郷内で何軒か昼食出来る場所がある
ため, 昼食はご用意致しません。)

16:00 岐阜駅解散

4. 参加費用等

- (1) 研究集会 (9/3)
学生無料, 部会員 4,000 円, 非部会員 5,000 円
- (2) 情報交換会 (9/3)
学生 3,000 円, 部会員・非部会員 5,000 円
- (3) 現地研修会 (9/4)
学生 2,000 円, 部会員 4,000 円, 非部会員 5,000 円
(注) 非部会員の方も畑地整備研究部会に入会して頂ければ,
今回から部会員価格で参加できます。入会を希望される方
は, 「第 47 回畑地かんがい研究集会参加申込書」の所定欄
に をご記入下さい。部会員として登録致します。部会員に
なつていただくと, 登録されたメールアドレスや所属住所
に, 研究集会, 企画セッション, シンポジウムの案内のほか,
畑地農業に関わる情報をお送り致します。入会金・年会費な
どは一切必要ありません。なお, (社) 畑地農業振興会の会
員の方も部会員価格で参加できますが, この機会に研究部会
に入会していただきますようお願い申し上げます。

5. 参加申込み

- (1) 申込方法
「第 47 回畑地かんがい研究集会参加申込書」(畑地整
備研究部会または (社) 畑地農業振興会のホームペー
ジよりダウンロードできます) に必要事項を記載の上,
E-mail (添付ファイルとして) または郵送で下記の申
込先にお送り下さい。
- (2) 申込先
郵送: 〒501 1193 岐阜市柳戸 1 1
岐阜大学応用生物科学部 千家正照
E-mail: senge@gifu-u.ac.jp (E-mail で申込みの方は,
件名に「畑地かんがい研究集会参加」と記述して下さい)

い。)

(3) 申込期限 平成 21 年 7 月 31 日 (金)

(4) 参加費の振込み

上記の「第 47 回畑地かんがい研究集会参加申込書」による申込みと同時に、講演会費、情報交換会および現地研修会の参加費を下記へお振り込み下さい。参加費を予め振り込めない場合は、振込予定日を申込書に記入して下さい。なお、当日会費を持参されますと、受付が混乱しますのでご遠慮願います。なお、振り込まれたお金は返金致しませんのでご了解下さい。

振込み期限：平成 20 年 8 月 14 日 (金)

振込口座：十六銀行黒野支店 (店番 111)

普通 1413056

口座名義：社団法人農業農村工学会畑地整備研究部会

畑地整備研究部会事務局

〒501 1193 岐阜市柳戸 1 1

岐阜大学応用生物科学部 千家正照

TEL/FAX 058 293 2877 E-mail: senge@gifu-u.ac.jp

畑地農業振興会畑地かんがい研究集会係

〒105 0012 東京都港区芝大門 1 3 11

TEL 03 3438 2581 FAX 03 3438 2583

E-mail: hatasin@muji.biglobe.ne.jp

研究集会の詳細は畑地整備研究部会または(社)畑地農業振興会のホームページに掲載しておりますのでご覧下さい。

畑地整備研究部会 HP:

<http://www.jsidre.or.jp/bukai/hatachiseibi/newpage1.html>

(社)畑地農業振興会

HP:<http://www1.a.biglobe.ne.jp/hataasin/>

6. 各種問合せ先

農村計画研究部会第 31 回現地研修集会の開催について (第 1 報)

技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 日時

平成 21 年 9 月 10 日 (木) 研修集会

平成 21 年 9 月 11 日 (金) 現地検討会

2. 会場

北海道大学 クラーク会館 (北海道札幌市)

3. 問合せ先

農村計画研究部会現地研修集会展場運営事務局

北海道農政振興局農村整備課 担当：大沼，上山

〒060 8588 北海道札幌市中央区北 3 条西 6 丁目

E-mail: nosei.noson2@pref.hokkaido.lg.jp

☎011 231 4111 (代表, 内線 27 618)

FAX 011 232 4128

第 58 回理論応用力学講演会開催について

1. 主催 日本学術会議 機械工学委員会・土木工学・建築学委員会合同 IUTAM 分科会

2. 共催 農業農村工学会ほか 20 学協会

3. 開催日 2009 年 6 月 9 日 (火) ~ 11 日 (木)

4. 会場 日本学術会議 (東京都港区六本木 7 - 22 - 34)

5. 趣旨

「理論応用力学講演会」は力学に関する最も権威ある世界の組織 IUTAM の開催する国際会議の国内版として開催されてきました。力学が細分化する中で、各々の分野の先端的研究を集めて、幅広い力学研究の動向を確かめ合うことが本講演会の目的です。本年度も、多くの力学の共通語を中心としたオーガナイズドセッションとパネルディスカッションを組み、ご要望にお応えしたいと存じます。皆様の多数のご参加をお待ちしております。

6. ホームページ

本講演会に関する詳細・最新情報は、ホームページ <http://www.jsce.or.jp/committee/amc/nctam/nctam.html> に掲載されています。

7. 参加申込方法 会期中、会場にて参加申込を受け付けます。直接ご来場下さい。

8. 参加費 無料

9. 講演論文集

原稿整理費 (10,000 円) とともに講演申し込みをされた方に頒布いたします。なお、講演論文集購入をご希望の方は、会期中会場にて有料 (8,000 円) で頒布いたします。また、当日講演会に参加なさらない方は「第 58 回理論応用力学講演会 講演論文集購入希望」と明記のうえ、代金 (8,500 円) を添えて現金書留にて幹事学会事務局宛に事前にお申し込み下さい。講演会終了後に送本いたします。

10. 英文論文

著者の希望により発表論文をあらためて英文で投稿されると、査読による審査を経て後日発行する英文 Proceedings に収録されます。寄稿申込みは、メールと郵送によって受け付けます。英文論文寄稿料として 10,000 円を申し受けます。寄稿申込期日は 2009 年 6 月 26 日 (金) まで、査読用原稿受付期日は 2009 年 7 月 24 日 (金) です。詳細につきましては、本講演会ホームページにてご案内いたします。なお、英文論文集発刊は 2010 年 3 月を予定しており、英文論文は J-STAGE にも掲載されます。

11. 問合せ先

実行委員会 講演担当幹事 吉川 仁 (京都大学)

☎075 383 3184 FAX 075 383 3183

E-mail : yosikawa@mbox.kudpc.kyoto-u.ac.jp

〒160 0004 東京都新宿区四谷一丁目外濠公園内

12. 幹事学会事務局

☎03 3355 3559 FAX 03 5379 0125

(社)土木学会 (担当: 増永・竹田)

E-mail : masunaga@jsce.or.jp

第9回 PAWEES (国際水田・水環境学会) 2009 国際研究集会の開催について

今年も PAWEES 国際研究集会を下記のとおり開催します。今年開催は日本の担当で、会場はインドネシアポゴール市、ポゴール農科大学、インドネシア SRI (稲集約栽培法) ネットワークとの共催です。研究集会での発表を募集しておりますので、是非ご応募下さい。

自然資源再生のための米の有機栽培、在来品種の使用とその効果

持続可能な水田開発を支える地域の価値や快適性に関する機能

記

1. 日時 2009年10月7日(水)~9日(金)

2. 場所 インドネシア ポゴール市
ポゴール農科大学国際ナショナルカンフェレンスセンター

3. 日程

第1日目 10月7日 第9回 PAWEES 国際研究集会

第2日目 10月8日 PAWEES 国際賞授与式

第9回水田農業地域における技術者育成に関する国際会議

第3日目 見学会

4. 募集テーマ

水田稲作における土地、水、労働生産性の向上

5. アブストラクトの提出

発表希望者は、参加申込みと同時に200~250語のアブストラクトを提出して下さい。審査を通った方は、フルペーパーを提出いただけます。

6. 締切日

アブストラクト 2009年6月30日

フルペーパー 2009年8月31日

参加登録 2009年9月7日

7. 参加申込み

参加者は登録票を提出して下さい。

登録料はUS\$100です。

詳細はホームページをご覧ください。

<http://web.ipb.ac.id/~pawees2009>

地域環境工学シリーズ4

清らかな水のためのサイエンス
—水質環境学—

(社)農業農村工学会発行

A5判, 9P, 一段組, 約220ページ

編集委員会 (五十音順, 所属は執筆時)

委員長 田淵 俊雄 (日本学術会議会員)
委員 安楽 敏 (農林水産省構造改善局建設部設計課)
" 中曽根英雄 (茨城大学農学部)
" 柚山 義人 (農業工学研究所農村整備部)

まえがき
I. 清らかな水のための序章
II. 水質環境の現状
III. 水質の変動現象
IV. 水質調査および水質分析
V. 集水域の水質環境—米養塩類の挙動—
VI. 水質環境の解析とモデル
VII. 生態系モデルによる水質環境解析
VIII. 広域水質環境をめぐる課題
巻末資料
さくいん

定価 3,200円 (内税・送料学会負担)
会員特価 2,800円 (内税・送料学会負担)
〔会員特価は、個人会員による前金購入の場合のみ適用されます。〕

申込先 〒105-0004 港区新橋5-34-4
(社)農業農村工学会
☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494